

# 第1学年 算数科学習指導案

日時 令和5年8月31日(木) 5校時

児童 1年1組 25名

指導者

1 単元名 「10より おおきい かず」(東京書籍 1年2 p.36~47)

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、学習指導要領の第1学年の内容「A 数と計算」における「数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考える」ことをねらいとし、特に40までの数について学習する。

(2) 子どもたちについて

子どもたちはこれまでに10までの数のまとまりに着目し学習してきた。ブロックを用いて、数の構成を捉えること、そして、数の合成・分解を数字で表していくこと等の活動を通し、就学前から日常的に使っている数の概念について、理解を深めることができている。また、自分の考えを友達に説明して、みんなに分かってもらおうとする意欲的な態度も見られる。一方で、ブロック等の操作が欠かせない子、個別に指示を出さないと活動が難しい子もいて配慮が必要である。

(3) 指導にあたって

数える対象が多くなってきた時に上手に処理して能率的に数えるために、「10といくつ」といったまとめて数えるよさに気付かせたい。そのために、毎時間の授業の導入の際には、フラッシュカードをモニターに提示し、示された数がいくつかすばやく答える学習を行い、数の数え方や数の構成を考える力の素地を育てていきたいと考える。また、学び合いにおいて、児童の考えを共有し合うために、一人一人の発言をつないでいくことを意識した展開をしていきたいと考える。

3 単元の目標と評価規準

(1) 40程度までの数の数え方、読み方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり表したりすることができる。 【知識及び技能】

(2) 数のまとまりについて着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

【知識・技能】①個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。

②数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすることができる。

③一つの数をほかの数と和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみるることができる。

【思考・判断・表現】①「10とあといくつ」などの数の見方を用いて、数の数え方や数の比べ方を考えている。

②数の大きさの比べ方や数え方を日常生活に生かす具体的な場面を見出している。

【主体的に学習に取り組む態度】①身の回りにあるものの個数や順番に親しみ、大きさを比べたり数えたりしようとしている。

②ものの個数や順番について、数を用いて表すことで、日々の生活が効率的になったり豊かになったりするというよさに気付いている。

4 単元の指導計画(9時間)

時	学習活動	評価の観点
1 本時	数のまとまりに着目し、20までの数の数え方、唱え方を考える。	【思判表】① 【態度】①
2	数のまとまりに着目し、20までの数の読み方、書き方を考える。	【知技】① 【思判表】①
3	20までの数を工夫して数える。20までの順序数について考える。	【知技】① 【思判表】①
4	数のまとまりについて着目し、20までの数の構成について考える。	【知技】③ 【思判表】①
5	数直線を用いて、20までの数の大小について考える。	【知技】② 【思判表】①
6	数直線を用いて、20までの数の系列について考える。	【知技】② 【思判表】②
7	20までの数の構成に基づいた、10と1位数の加法とその逆の減法について考える。	【知技】③ 【思判表】①
8	20までの数について、その数の構成に着目して、 $12+3$ や $15-3$ などの式に表し、計算の仕方を考える。	【知技】③ 【思判表】①
9	40までの数の数え方、読み方、書き方を考える。	【知技】① 【態度】②

5 本時の指導（1／9）

(1) 本時の目標と評価規準

本時の目標	評価規準A	評価規準B
10より大きい数の数え方を、「10とあといくつ」などの数の見方を用いて、考えることができる。	10のまとまりを作って考えるよさに気付くことができる。	「10のまとまりと端数がいくつ」と数を数えることができる。

(2) 指導の構想（「つなぐ」視点とICT活用について）

〔教材とつなぐ〕問題把握の場面で、モニターに示されたフラッシュカードを見て、いくつの数が示されているかを一斉に言う。カードの最後に、教科書にある、まさしさんの拾ったどんぐりを示し、10個より多いという見通しを持ち、子どもとテキストをつなぐ。

〔他者とつなぐ〕自力解決で取り組んだ課題シートをモニターに映し出し、学び合いの中で、「10のまとまりを作って、10といくつ（ばら）で考えたほうがよい」というよさを「1つずつや2つずつだと数えるのが大変」「10のまとまりで考えていくと分かりやすい」「多い数だと数えやすい」などといった理由を児童の発言で共有し、子どもと子どもの考えをつなぐ。

(3) 展開

段階	学習内容	指導上の留意点（・支援 ○評価）	準備物 ICT活用
導入 5分	1. 問題を把握する。 ・ フラッシュカードを見て、いくつの数が示されているかを一斉に言う。 ・ フラッシュカードの最後に、まさしさんの拾ったどんぐりを示し、10個より多いという見通しを持つ。 2. 本時の課題を把握する。	・ フラッシュカードを拡大提示して、モニターに表示する。	教科書 モニター
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     ㊦ 10より おおきい かずの かぞえかたを かんがえよう。                 </div> 3. 見通しを持つ。（答えの見通し、解決の見通し） ・ まさしさんが拾ったどんぐりの数を数え、「13」という読み方と書き方を確認する。 ・ みきさんが拾ったどんぐりの数をどのように数えればよいか考える。 4. 課題を自力で解決する。 ・ みきさんが拾ったどんぐりの数をブロックを使って数える。 （1つずつ、2つずつ、5つずつ、10のまとまりとばら） 5. 学び合いをする。（考えを共有し深める。） ・ 数え方を発表し合う。 （ペア→全体で） ・ 発表しあった中で考え方のよいところを出し合う。 6. 本時のまとめをする。	・ どんぐりとブロックを1対1対応させながら、算数ブロックを置いていく。 ○ 20までの数について「10のまとまりと端数がいくつ」とみて、数え方を工夫して考えようとしている。 【態度】	どんぐりの数の拡大シート
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     ㊧ 10の まとまりを つくって 「10と いくつ」で かぞえる。                 </div> 7. 適用問題に取り組む。 ・ 20までのものの数を「10といくつ」で丸を囲んで数を数える問題に取り組む。 8. 本時の学習を振り返る。 ・ 分かったことや友達のがんばりについて発表する。	・ 身の回りで10のまとまりになっているものについて考える。	モニター
終末 10分			適用問題シート